

就職前教育についての卒業生からの評価 ——「既卒者からのアドバイス」と「看護技術練習」を試みて——

板橋 和子 成田みゆき 中根 洋子
天野 雅美 山本 君子

東京医科大学看護専門学校

【要旨】 本研究の目的は、3月に実施した「既卒者からのアドバイス」と「看護技術練習」が就職の準備に役立つか、その他どのような就職準備を行ったかを明らかにすることである。調査対象は、平成14年3月31日に本校を卒業見込みで就職内定した79名の内、「既卒者からのアドバイス」と「看護技術練習」の双方に参加し、調査に協力を得られた53名であった。調査方法は自作の無記名方式の質問紙を用いた。調査期間は4日間とした。結果は、アドバイスが就職準備の参考になった者47名、時期が適当と答えた者49名、時間が短いと答えた者46名、内容は適当だと答えた者51名であった。心に残った内容は、仕事の大変さ、辛い時の乗り越え方、支えになる人の存在などをあげていた。看護技術練習の項目は、採血、注射、吸引等10項目とし、53名全員が就職後に役立つと思われると答えていた。就職にあたり準備をした者は22名で、先輩に話を聞いた、規則正しい生活を送ったなどがあがった。

I. はじめに

ここ数年、職場に適応できず1年未満で退職してしまう卒業生が増加している。就職への心構えや準備が十分されないまま就職し、仕事に適応できないことも、その要因の一つと考えられる。

堀ら¹⁾は、新人看護師の職場適応に影響する要因を、心理的・社会的・対人的・技術的・身体的要因の5つに分類し、就職当初は技術的要因が強く影響すると報告している。東京医科大学看護専門学校(以下本校とする)の臨地実習は11月に終了するので3年生は就職まで5ヶ月あまり臨床から離れてしまう。就職前に看護技術の練習を実施し、基本的知識と技術を想起させることは、就職後の看護技術の習得をスムーズにするだけでなく、就職への意識を高め、心構えや準備に役立つのではないかと考えた。そこで今回、卒業生への就職の支援として、既卒者からのアドバイスと、看護技術の自主練習の場を提供した。これらが就職への心構えや準備に効果的であったかをアンケート

調査で明らかにした。

職場適応や、リアリティショックについては、多くの研究がなされている¹⁾³⁾⁵⁾⁷⁾⁸⁾。

卒業時の学校側からの取り組みについては、不安の意識調査をしたものはあるが、具体的な取り組みについての報告は少ない。これらを研究することにより、職場適応を促す学校側のサポートのあり方について再考できる。また研究の結果から臨床と協力し、職場適応を促していくことの一助となる。このことから本研究を行う意義があると考えられる。

本研究において、就職準備とは、卒業生が就職するにあたって必要な物や態勢を前もって整えること。看護技術練習とは、診療に関連する援助技術と日常生活行動の援助技術を想起するために、特定の技術内容を、ある一定期間を設けて行う練習のこととする。

また、就職前教育とは、全カリキュラムを終了し、就職するまでの期間に看護学校側が行う意図的な働きかけとする。既卒者とは、本校の卒業生を指し、卒業生は全カリキュラムを終了して就職するまでの期間

にある学生とする。

本研究の目的は、3月に実施した既卒者からのアドバイスが就職の準備に役立つか、3月に実施した看護技術練習が就職の準備に役立ったか、その他どのような就職準備を行ったかを明らかにすることである。

II. 方 法

1. 対象者

平成14年3月31日に本校を卒業見込みで就職内定した79名の内「既卒者からのアドバイス」と「看護技術練習」の双方に参加し、調査に協力を得られた53名とした。調査方法は自作の無記名方式の質問紙(資料1参照)を用いた。質問紙の内容は、看護技術練習以外に就職するにあたって準備をしたか、卒業生のメッセージについて8項目、看護技術練習について5項目とし、実習室に質問紙を置いておき、練習終了後その場で記入するよう説明した。そして、この調査結果を来年度の就職前教育に活用することの同意を得た。回収は教員に手渡しとした。調査期間は3月25, 26, 28, 29日の4日間であった。

今回は、既卒者からのアドバイスと看護技術練習を、初めて企画し実施したことから、単純集計を行い、参加した学生の実際の感想を重視した。

2. 就職前教育の方法と手順

- 1) ガイダンスでは、企画した目的と内容を卒業生に説明した。目的は、社会人への意識を高めることであり、内容は既卒者からのアドバイスと看護技術練習である。
- 2) 既卒者からのアドバイスは、卒業生の就職への動機づけをするために、話せる範囲で体験談を伝えてほしい旨を依頼した。既卒者の経験年数は就職後11ヶ月目と6年目の者である。就職後11ヶ月目の既卒者の内容は、①就職するにあたって自分が行った頭の準備、からだの準備、心の準備②仕事の大変さや責任の重さ③ターミナル期の事例を通して知った看護の喜び④看護師になってよかったと思っている体験談④就職して辛かった時をどのように乗り越えたか、また支えになる人の存在についてである。

就職後6年目の既卒者の内容は、①卒業生に期待することとして、挨拶、笑顔、積極性、謙虚さ、看護技術練習②教える側が新人を迎えるにあたっての準備③仕事の大変さや責任の重さ④プリセプターとの関係⑤学生と社会人の違

い⑥学習方法⑦やめたいと思った時にどのように乗り越えたか、また支えとなる人の存在についてである。

3) 進め方

既卒者1名15～20分の講話とし、質疑応答を各10分間とった。

3. 看護技術練習

- 1) 日程は、3月25, 26, 28, 29日の4日間とした。
- 2) 看護技術項目は、①医療事故につながりやすい看護技術として、経口与薬、筋肉内注射、静脈内点滴注射の準備と管理②就職後すぐに実践する看護技術として、経口与薬、筋肉内注射、静脈内点滴注射の準備と管理、採血、無菌操作、酸素吸入③身体に直接針を刺したり、薬液を注入したり、器具を挿入する看護技術として、浣腸、筋肉内注射、採血、吸引④比較的困難だと思われる日常生活行動の援助技術として、点滴やドレーンが挿入されている患者の寝衣交換、臥床患者の洗髪、以上の10項目を選択した。
- 3) 実施方法としては、卒業生には事前に実習室使用申込書を記入してもらい、実習室に於いて、希望者が自主的に実施した。教員はアドバイザーとして必ず一名は実習室に待機し、卒業生からの質問に答えたり、実践場面を示したりした。また卒業生からの質問を契機に教員の臨床経験を伝えた。

III. 結 果

調査に協力が得られた53名の回答は100%が有効だった。

1. 回答者の背景

年齢は20～24歳までが46名(87%)、25～29歳が5名(9%)、35～39歳まで1名(2%)、無回答1名(2%)であった(図1)。

一般学歴は高校卒が47名(88%)、短大卒が4名(8%)、大学卒が2名(4%)であった。4名(8%)の者に就業経験があった(図2)(図3)。

卒業後の進路予定は、東京医大病院への就職が47名(88%)、他施設3名(6%)、進学1名(2%)、無回答が2名(4%)だった(図4)。

2. 既卒者からのアドバイスについて

53名全員がこのアドバイスを聞いていた(図5)。アドバイスが「就職準備の参考になった者」は47名(88%)、「どちらともいえない者」が4名(8%)、「無回答」が2名(4%)、「参考にならなかった」と答えた者

はいなかった(図6)。「時期が適当と答えた者」は49名(92%),「遅い・早い」が各1名(2%)ずつ,「無回答」は2名(4%)だった(図7)。「時間を適当」と答えた者は6名(11%)で,「短い」が46名(87%),「無回答」が1名(2%),「長い」と答えた者はいなかった(図8)。内容は,「適当だ」と答えた者が51名(96%),「不適當」は無しで「無回答」が2名(4%)だった(図9)。「心に残った内容があった」と答えた者が41名(77%)で具体的には,仕事の大変さ(特に3ヶ月)や,辛い時

の乗り越え方,支えになる人の存在,プリセプターとの親密な関係,プリセプターの指導準備の大変さ,などをあげていた。「心に残った内容がない」と答えた者が8名(15%),「無回答」は4名(8%)だった(図10)。「もっと聞いてみたい内容がある」と答えた者が12名(23%)いた。具体的には,就職当初のスケジュール,新人看護師が1年間に経験すること,体調管理,プライベートな時間の使い方等,臨床での経験談をより深く知りたいという内容であった。「もっと聞いてみたい

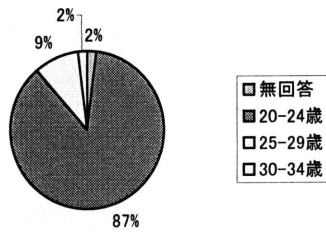


図1 年齢構成

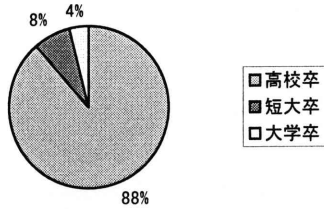


図2 一般学歴

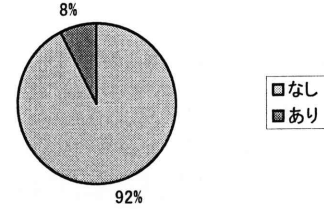


図3 就業経験の有無

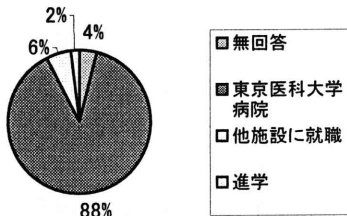


図4 卒業後の進路予定

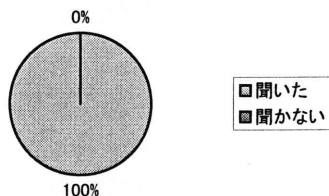


図5 既卒者からのアドバイスを聞いたか

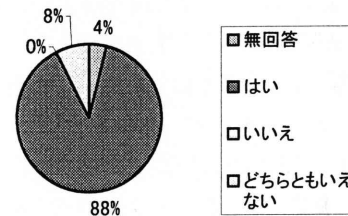


図6 既卒者からのアドバイスが就職の準備の参考になったか

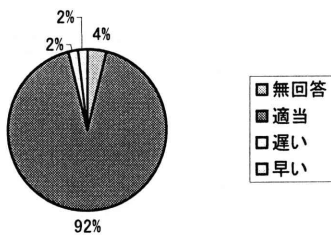


図7 既卒者からのアドバイスの時期は

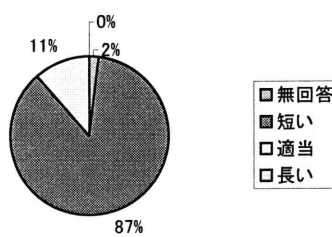


図8 既卒者からのアドバイスの時間は

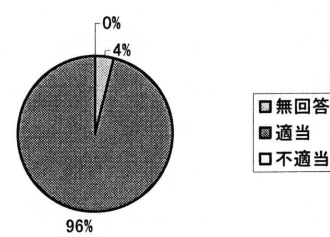


図9 既卒者からのアドバイスの内容は適当だったか

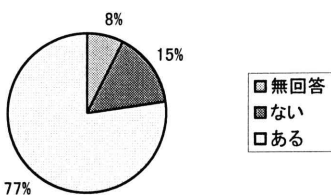


図10 心に残ったアドバイスがあったか

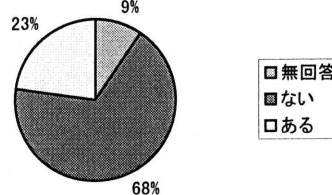


図11 もっと聞いてみたい内容があったか

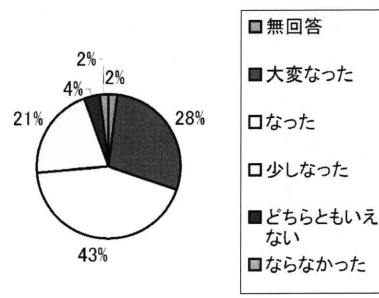
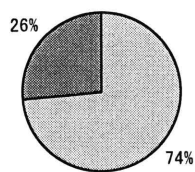
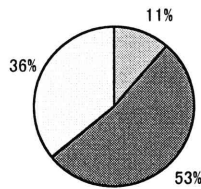


図12 既卒者からのアドバイスが自主練習を行うきっかけになったか



□ はい
■ いいえ

図13 事前準備や学習を行ってきたか



□ 無回答
■ ない
□ ある

図14 他に練習したかった項目の有無

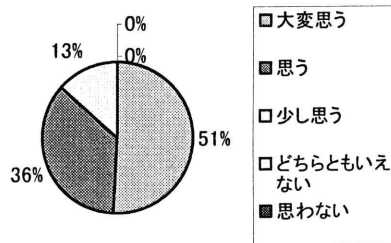


図15 看護技術の練習が就職後の役立つと思うか

内容がない」と答えた者は36名(68%),「無回答」は5名(9%)だった(図11)。アドバイスが看護技術練習をする動機づけに「大変なった」と答えた者が15名(28%),「なった」と答えた者が23名(43%),「少しなった」が11名(21%),「どちらともいえない」が2名(4%),「動機づけにならなかった」者が1名(2%),「無回答」が1名(2%)だった(図12)。

3. 看護技術練習について

既卒者からのアドバイスは卒業生の全員が参加した。しかし、看護技術練習は就職内定者79名中53名(67%)の参加であった。

練習回数は、1回が40名、2回が10名、3回が3名であった。

練習するにあたって事前準備や学習を行ってきた者は39名(74%),行ってこなかったものは14名(26%)であった(図13)。

事前学習の内容は教科書などを復習したものが16名(30%),実習時の資料を見直した者は16名(30%),イメージトレーニングした者は15名(28%),無回答が15名(28%)であった。実施した項目は、採血が49名(92%),注射(筋肉内注射・点滴静脈内注射の準備と管理)が47名(89%),吸引が36名(68%),無菌操作が31名(58%),酸素吸入が1名(2%),点滴を受けている患者の寝衣交換が15名(28%),経口与薬が5名(9%)いた。

しかし、臥床時の洗髪を実施した者はいなかった。練習方法では、思い出しながら行った者が38名(72%),教科書などを見た者が33名(62%),実習で活用した資料を見た者が26名(49%),友人に聞いた者が26名(49%),VTRを見た者が3名(6%)であった。その他の方法として、教員に確認した者が10名(19%)であった。

他に練習したかった項目についてはないと答えた者が28名(53%),あると答えた者は19名(36%)であった(図14)。練習したかった項目は、導尿、陰部洗

浄、浣腸、摘便であった。

今回の看護技術練習が就職後に役に立つかという項目に対しては、大変思う者は27名(51%) 思う者は19名(36%), 少し思う者は7名(13%)であった。どちらともいえない、思わないと答えた者はいなかった(図15)。

看護技術練習以外に就職するにあたって準備をしなかった者は30名(57%)で、その理由は国家試験のことを考えると何も手につかなかった、何もする気になれなかった、就職するという実感がわかかなかった、あつという間に時間が過ぎた、これから行う予定などを挙げていた。

就職にあたり準備をした者は22名(42%)であり、その内容は身だしなみを整えた者が8名(15%),先輩に話を聞いた者は8名(15%),教科書などを復習した者は6名(11%),規則正しい生活を送った者が5名(9%),テキストを購入した者は1名(2%)いた。

その他、看護技術練習に関する意見として、忘れていた部分が多かったので練習して良かった、就職に対する意識が高まった、教員の具体的なアドバイスや臨床での経験談がとても参考になった、看護技術の復習・心の準備の両方ができた、練習することにより不安が軽減した、実際に採血や筋肉内注射を試みたかった、練習中緊張感を持てなかった、があった。

IV. 考 察

1. 3月に実施した既卒者からのアドバイスが就職の準備に役立つか

学年連絡の時間を活用し、既卒者からのアドバイスを卒業生全員が参加できるように計画したため全員が聞くことができた。ほとんどの卒業生が就職準備の参考になったと答えていることから、計画的に場を提供したことが効果的であったと考える。卒業生からの要望を待っているだけでなく、教員側から積極的に働きかけていくことによって、学生が触発され、準備の

必要性を実感できた。このような外発的な動機づけが、看護技術練習へとつながり、内発的動機づけとなった。

時期が適当と多くの卒業生が答えている。その理由は、国家試験が終わり、合否に対する不安はあるものの気持ちが一段落し、就職に関する話を聞くゆとりができた時期であったからと考えられる。

期間に関しては、短いと答えている者が多かった。しかし、もっと聞いてみたい内容があるかと問うと、臨床での経験をもっと聞いてみたいという漠然とした内容に留まっていた。

また質問時間を設けたが卒業生から具体的な質問が出なかったのは、就職後のイメージがつきにくいためと考えられる。

卒業生の要望に応じて、既卒者からの経験談をさらに多く取り入れることにより、就職後のイメージも付きやすくなると考えられる。

多くの者が既卒者からのアドバイスの内容を適当であったと感じていた。特に、就職に向けて自分が行った心の準備、経験してみてもどのような準備をしておけばよかったか、などの既卒者からのアドバイス内容は、卒業生のニーズに合っていたといえる。

11か月目の既卒者からのアドバイスは卒業生にとってとても身近に感じられる内容であり、現実的で実感を伴って聞くことができたようだ。6年目の既卒者からのアドバイスは、教える側の大変さや難しさ、また教える側も悩みながら関わっているというような内容であった。指導する側の立場にも気づくことができたようだ。

既卒者からのアドバイス内容を聞いたことで、看護技術練習を行うきっかけになった者が多かった。その理由として、自信の無さから来る不安を解消するためには、練習が必要だとアドバイスされたことが関係するようだ。そして、基本的知識や技術を確認し、練習を繰り返すことの重要性を再認識したのではいかと考えられる。看護技術練習に参加した者の中には、アドバイスが技術練習を行うきっかけにならなかった者もいたが、技術練習の機会があったことにより、何らかの必要性を感じて練習に参加したものと思われる。

2. 3月に実施した看護技術練習が就職の準備に役立つか

看護技術練習を自主練習とした理由は、カリキュラム外であること、卒業生の主体的な練習を期待したこ

とであった。半数程度の参加を予測していたが、参加者は6割以上であった。神郡らりは「新人看護婦の『職場適応の不安』の第一が、自分自身の看護技術にある」としている。これは新カリキュラムでは臨地実習の時間が減少し、学校で学んだ看護技術を実際に実施する機会が少なくなっているためと考えられる。また看護技術に関しては不安を抱いている卒業生が多いため、練習の必要性は自覚していたと思われる。

本校では看護学校協議会の方針に則り、身体に直接針を刺したり、薬液を注入したり、器具を挿入する看護技術に関しては、準備と後片付けのみ実施し、それ以外は見学実習と規定している。そのため採血注射等の看護技術を多くの卒業生が練習していたと考えられる。また排泄に関連する技術は、実習中に経験が少ないため、企画した練習以外に練習しなかった項目として挙げられていたと考えられる。

新卒者が起こしやすい医療事故として経口与薬の確認ミスが多いため、与薬場面を企画したが、練習した者は少なかった。これは、処方箋と薬剤を照合し確認する内容に留まっていたので、簡単にできると思込み、繰り返して練習する必要性がないと判断したと考えられる。今後は教員側の企画意図を伝えると共に、臨床に近い状況設定が必要である。例えば、同姓者、間違いやすい薬品名、複数患者への与薬などである。

練習するにあたり7割以上が事前学習を行い参加していたことは、事前学習の必要性を理解し主体的に取り組んでいたといえる。練習方法として、事前学習したものを活用して、行っている学生も多かった。しかし資料等を確認せずに、思い出しながら行った者や友人に聞いた者、参加すれば教員から指導が受けられると考え、受動的な姿勢の卒業生もいた。今後もそのような卒業生が増えてくると考えられるため、主体的な取り組みができるようにしていく必要がある。また、練習中に受動的な態度が顕著な場合は、その場で取り組み姿勢を振り返ることができるように関わることが、職業人としての自覚を促すことにつながる。

教員の具体的なアドバイスや臨床での経験談がとても参考になったと答えた卒業生が多かった。既卒者からのアドバイスをもっと聞きたかったと答えているのと同じように、看護師の先輩である教員から経験談を聞くことでイメージをつけて不安を軽減しようとしたことが考えられる。

3. その他どのような就職準備を行ったか

既卒者のアドバイスによって、就職準備の必要性に気づいて行動に移してほしいと期待したが、準備をした卒業生は少なかった。国家試験の結果や何を準備していいか想像がつかない等という気持ちも理解できる。しかし、具体的な準備として体調を管理し、生活のリズムを整えること等が、社会人としての認識を高めることにもつながっていくと考える。

多くの卒業生は青年期にあるため、依存から自立に向けて、職業選択し経済的自立を果たし、社会の一員として生活していかななくてはならない時期である。しかし、卒業直後自立への移行期であり、学生時代の延長という意識が抜けない時期でもある。そのため仕事に対する現実感が少なく、実感を伴っていない。就職を控えた時期に教員側から、自立できるような働きかけが重要である。

V. ま と め

就職後に、患者を目の前にすると不安や戸惑い、緊張を抱くなどが予測される。それら乗り越え職場適応できることが教員のねがいである。

今回実施した、既卒者からのアドバイスや看護技術練習は、就職を控えた卒業生にとって役立ったと思われる。

就職前教育は、臨床の求める看護師像と看護基礎教育の目標看護師像との差を埋める橋渡しの一つであると考えられる。

この研究は、本校の、平成13年度卒業生に調査した結果であり、一般化には限界がある。今後は就職前教育の内容をさらに検討したい。また臨床側との連携をはかり、効果的な就職前教育を実施し、職場適応を促す一助としていきたい。

引用参考文献

- 1) 神郡博, 田村文子: 新卒看護婦にみられるストレスに関する研究, 群馬大学医療短期大学部紀要, **11**, 75-81, 1990.
- 2) 堀百合子, 西川ひとみ他: 新カリキュラム卒業生の職場への適応過程—リアリティショックの程度とそれを左右する要因の経時的变化—, 日本看護学会集録 看護教育, **27**, 52-55, 1996.
- 3) 根本則道, 桜井勇他: 卒前教育におけるシンポジウム形式による学習法の導入—学生の医学研究への興味と動機づけの試み, 医学教育, **29**(2), 101-105, 1998.
- 4) 平松明子, 村山淑子他: 入職1年目ナースにみられた6ヶ月後のリアリティショックと対策に関する要因, 日本看護学会論文集 看護管理, **30**, 93-95, 1999.
- 5) 佐々木雅史, 河合由美子他: プリセプティからみたプリセプターシップの現状, 日本看護学会論文集 看護管理, **30**, 133-135, 1999.
- 6) 芳賀久美代, 鈴木幸子他: 新卒看護婦のリアリティショック—病棟の特殊性によるショックの程度と要因の違い—, 日本看護学会論文集 看護総合, **30**, 106-108, 1999.
- 7) 浅見多紀子, 岩崎いづみ他: S県内の看護職員にみられる Burnout の実態, 日本看護学会論文集 看護総合, **30**, 109-111, 1999.
- 8) 星野恵美子: 日々のかかわりの中での職場適応支援—新人とのかかわりノートで事例を考える—, 看護展望, **25**(5), 21-25, 2000.
- 9) 坂本富恵, 池下愛子他: 新人看護婦と2年目看護婦のリアリティショックに関する検討—Burnout 得点を用いて—, 三豊総合病院雑誌, **21**, 37-39, 2000.
- 10) 福田紀子: ナースのストレスとうつ状態, 臨床看護, **28**(8), 1230-1234, 2001.
- 11) グレグ美鈴: 看護師の職業的アイデンティティに関する中範囲理論の構築, 看護研究, **35**(3), 196-203, 2002.

資料① 質問紙

今年度企画しました「先輩のアドバイス」「自主技術練習」が、就職準備に効果的だったかご意見を伺いたいと思います。よろしくご協力をお願いします。

I. 当てはまるものに○をして下さい。

- 1) 年齢 ①20-24歳 ②25-29歳 ③30-34歳 ④35-39歳 ⑤40歳以上
 2) 一般学歴 ①高校卒 ②短大卒 ③大学卒 ④その他 ()
 3) 就業経験の有無 ①なし ②あり () 年
 4) 卒業後の進路 ① 東京医科大学病院に就職 ② 他施設に就職 ③ 進学
 5) 今日は何回目の練習ですか ①初回 ②2回目 ③3回目 ④4回目 ⑤5回目以上

II. 今回の自主技術練習に参加する以外に、就職をするにあたって何か準備をしましたか。

- ①した ②しない
 ①と答えた方はその内容で当てはまるものに○をつけてください。
 教科書などを復習した・先輩に話を聞いた・身だしなみを整えた・規則正しい生活を行った
 その他 ()
 ②と答えた方はその理由をご記入ください。
 理由:

III. 卒業生のメッセージについて当てはまるものに○をしてください。

- 1) 卒業生のメッセージは聞きましたか ①はい ②いいえ
 2) 就職の準備の参考になりましたか ①はい ②いいえ ③どちらとも言えない
 3) 時期はどうでしたか ①適当 ②遅い ③早い
 4) 時間はどうでしたか ①適当 ②短い ③長い
 5) 内容はいかがでしたか ①適当 ②不適當(理由) ()
 6) 心に残っている内容がありますか ①ない ②ある(内容) ()
 7) もっと聞いてみたい内容がありましたか ①ない ②ある(内容) ()
 8) 卒業生のメッセージが今回の看護技術練習を行うきっかけになりましたか
 ①大変なった ②なった ③少しなった ④どちらとも言えない ⑤ならなかった

IV. 自主技術練習について当てはまるものに○をしてください。

- 1) 練習するにあたって事前準備や学習を行ってききましたか
 ①はい ②いいえ
 ①と答えた方はその内容で当てはまるものに○をつけてください。
 ・教科書などを復習した・実習時の資料を見直した・イメージトレーニングをした
 ・その他 ()
 ②と答えた方はその理由をご記入ください。
 理由:
 2) 今日、どの項目を練習しましたか(複数回答可)
 ①経口与薬 ②注射(筋注・点滴) ③採血 ④清潔操作 ⑤更衣交換 ⑥洗髪
 ⑦酸素吸入 ⑧吸引 ⑨その他 ()
 3) どのような方法で練習しましたか(複数回答可)
 ①教科書などを見た ②実習時の資料を見た ③VTR ④友人に聞いた
 ⑤思い出しながら行った⑥その他 ()
 4) 他に練習しなかった内容はありますか ①ない ②ある(内容) ()
 5) 今回の練習が就職後に役立つと思いますか
 ①大変思う ②思う ③少し思う ④どちらとも言えない ⑤思わない

V. その他、看護技術の自主練習に関して何かご意見があればご記入ください。

ご協力ありがとうございました。
 ご活躍、ご健闘をお祈り申し上げます。
 学生指導員会(板橋・中根・成田・天野)

平成14年3月